

滋賀県の予算



中学生版

滋賀県の予算の内容

滋賀県では毎年予算を編成し、様々な事業に取り組んでいます。平成30年度の当初予算の概要を見てみましょう。



国は地方公共団体に対して、公共事業などの特定目的のための負担金・補助金(国庫支出金)、地方公共団体間の税金のかたよりを是正するための交付金(地方交付税交付金)を支出する。



上のグラフのア～エには下の①～④のどれが当てはまると思いますか？ 予想してみてください。

- ①健康医療福祉費 ②琵琶湖環境費 ③教育費 ④公債費

答えは次のページへ

国の役割

本来、国でないと果たせないもの

- ・国家としての存立にかかわるもの(外交、国防など)
- ・全国的に統一で定めることが望ましい基本的なもの(司法、貨幣(通貨)など)
- ・全国的な規模・視点で実施すべきもの(高度な科学技術、国勢調査など)



国が、本来、国でないと果たせない役割を担うことに対し、住民に身近な行政は、できる限り地方公共団体が担うことが原則とされています。その中でも都道府県は特に広域にわたるものなどを担っています。

滋賀県の歳入では国全体の政策に基づく事業を実施するための国庫支出金や地方の税金の格差を是正する地方交付税など国からの支出が1/3を占めています。

加えて県で課税している税金や県債などの収入を財源にして、様々な分野への支出を行っています。

滋賀県予算の使いみち

ア) 教育費

県立の高等学校や特別支援学校などの建設や改修、教員の給与などに対する支出です。そのほかにも、市町立の小中学校の教員の給与を国とともに負担しており、教育費は滋賀県の歳出予算のおよそ 25% を占めます。

学習船「うみのこ」の運営に係る経費も年間約 3 億円支出しています。



学習船「うみのこ」

イ) 健康医療福祉費

社会保障関係に係る経費で、滋賀県予算の約 20% を占めます。

県民の方が病院で支払う治療費の一部を負担する健康保険や、高齢者の方が介護サービスを受ける場合の費用の一部を負担する介護保険の財源の一部を、国や市町とともに負担しています。

また、収入の減少などで通常の生活を営むことが困難な状況になった場合に最低限の生活を保障する生活保護制度や、難病対策、障がい者福祉、さらに保育所の整備など、子どもからお年寄りまで、県民の方が健康で安心して生活できるための施策を国や市町と連携して実施しています。



ウ) 公債費

滋賀県が銀行などから借りたお金（県債）を毎年返済（償還）するための経費です。

地方公共団体は、施設や道路などを整備するときに、その財源を銀行などから県債として借入れることが認められています。

これは、将来、長期にわたって利用される施設・設備に対しては、その年の税金で建設費の全額をまかなうのではなく、返済で将来の世代にも税金で公平に負担をしてもらう、という考え方によるものです。

一方で、公債費が大きくなりすぎると、他の分野の支出に使うことができる財源が減るので、県債借入れの規模が適切になるよう注意しています。

エ) 琵琶湖環境費

琵琶湖は、400 万年の歴史を有する世界有数の古代湖であり、60 種を超える固有種を持つ、豊かで大切な湖です。

滋賀県では「マザーレイク 21 計画」という計画を策定し、「活力ある営みのなかで、琵琶湖と人とが共生する姿」を実現するため、「琵琶湖環境部」という部署を中心に、水質改善、水草対策、外来魚やカワウの駆除、さらには森林の保全や「やまのこ」などの環境学習の推進などさまざまな施策に取り組んでいます。

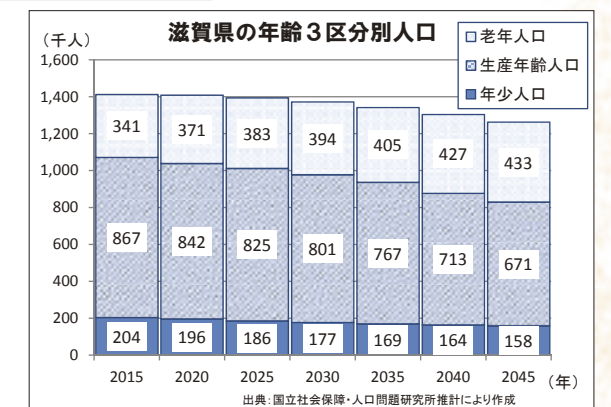
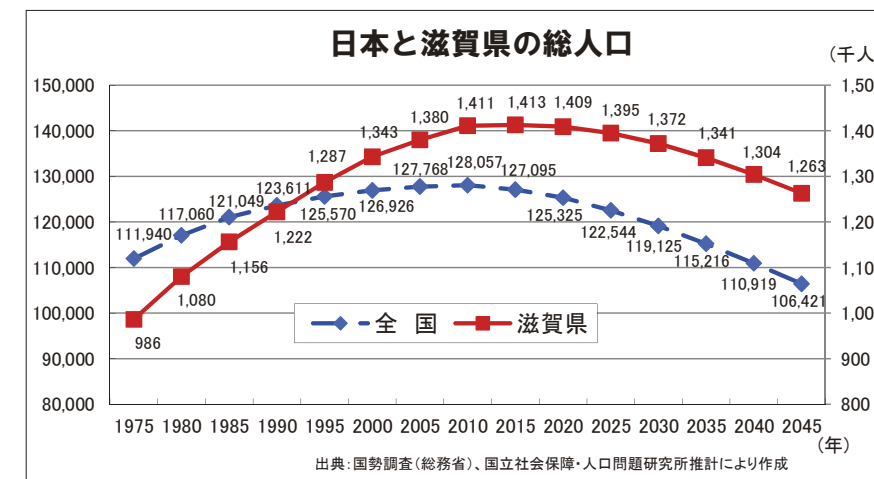
また、平成 27 年 9 月には「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」が公布・施行され、琵琶湖を国民的な資産として保全・再生を図ることとされました。

滋賀県の課題

滋賀県の課題のひとつに、人口が減少するなかで高齢者の割合が大きくなる「超高齢社会」の到来が挙げられます。

滋賀県の人口は、2013 年ごろをピークに、既に減少局面にあると考えられます。全国の場合と比べ人口減少のスピードが緩やかなものの、2015 年に約 141 万 3 千人であった人口は、2045 年には約 126 万 3 千人（10.6% 減）まで減少する見込みです。

また、高齢者数では、2015 年の約 34 万 1 千人から 2030 年には約 39 万 4 千人に急増（15.3% 増）し、全国（9.7% 増）より高い増加率となる見込みです。



国や滋賀県では超高齢社会へ対応するため、様々な社会保障関連の施策を実施していますが、今後も医療や介護に要する経費の増加が予想されています。

滋賀県の特徴

滋賀県の歳入予算のうち県税は 30%程度であり、その他の収入も含め、自主的に収入できる財源は全体の 50%程度となっています。

一方、国からの支出金や銀行などから借りる県債など、他に依存している財源が残りの 50%程度を占めています。

財源に限られる中で、様々な課題に対応できるよう自主財源の確保に取り組んでいます。

琵琶湖森林づくり県民税

滋賀県では平成 18 年度から「琵琶湖森林づくり県民税」を設け、県民のみなさんにご負担いただいています。これは、森林が琵琶湖の豊かな水を育むと同時に、土砂崩れなどを防止する機能も有していることを県民のみなさんに知っていただき、みなさんと協働して森林づくりを進めることを目的としています。

この財源（年間約 8 億円）を活用して、森林環境学習（やまのこ）事業を実施したり、県立高校等に設置する下駄箱やベンチなどに県産材を利用する取り組みを進めています。



「やまのこ」事業



間伐材の搬出



木の学習机

ネーミングライツの導入

ネーミングライツとは、一般には、公共施設などに企業名や商品のブランド名などを冠した愛称を付ける権利で、この権利を売却することで、施設運営等に係る資金を得ようとするものです。

- ◎企業 地域社会への貢献、PR 効果
- ◎県 ネーミングライツによる収入により、施設サービスの充実や安定した施設運営基盤の確立
- ◎県民 施設サービスや利便性の向上



日産リーフの森（県民の森）



長浜バイオドーム
（滋賀県立長浜ドーム）



ウカルちゃんアリーナ
（滋賀県立体育館）

滋賀県の予算について、皆さんが気づいたこと、感じたことを挙げてみましょう。

みなさんなら、どのようなことに予算を使いたいと思いますか。滋賀県に住む人がもっと安心して便利になるようなことや、身の回りで困っていることを解決するような使いみちを考えてみましょう。

滋賀県の予算



〈発行日〉

平成 31年(2019年)3月

〈編集・発行〉

滋賀県総務部財政課

〒 520-8577 大津市京町四丁目 1-1

TEL 077-528-3182

FAX 077-528-4817



この印刷物はグリーン購入法適合用紙を使用しています。